

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

英語検定チャレンジ事業

事業の経過・背景・課題

グローバル化が急速に進展する中、その社会で対応できる人材の育成が求められており、外国語教育の重要性が増している。

中学校卒業段階で英語検定 3 級相当レベルに達した生徒の割合について、国の目標の 5 割と同等の水準を本市でも目指すとともに、英語力の向上を図ることで、グローバルな人材を育成する。

取組内容

交付実績額： 1,015 千円

生徒の英語力の向上を図るため、英語検定にチャレンジする機会を設ける。

- ・対 象：中学校 2 年生及び 3 年生
(義務教育学校 8 年生及び 9 年生)

- ・検定試験日程：令和 5 年 5 月
令和 5 年 9 月
令和 6 年 1 月



事業の成果・今後の展望等

英語検定受験に向け、英語への学習意欲を高めることで、英語力の向上を図ることができた。

中学 2 年生から対象とすることで、裾野が広がり、3 年生に進級した際には、より上位の級を目指すことができるようになった。今後も、より周知を図り、英語力の向上を図る。

英語検定 3 級相当以上取得者（中学 3 年生） 令和 4 年度 22.6%→令和 5 年度 14.5%

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

確かな学力育成補助金事業（小学校・中学校）

事業の経過・背景・課題

亀岡市「確かな学力育成ビジョン」に基づく取組の一環として、亀岡市小・中学校校長会、小・中学校教育研究会と教育委員会が連携して「亀岡市確かな学力育成会議」を組織し、学力向上対策を進めてきた。

学力向上を図るには、単年度での評価のみではなく、義務教育 9 年間の中で、全体を見通した系統立った学習を進める必要がある。

取組内容

交付実績額： 2,656 千円

児童生徒の確かな学力を育成するため、本市独自の学力調査を実施する「亀岡市確かな学力育成会議」に対して学力調査にかかる費用の支援を行い、9 年間の学力調査結果を紐づけし、より詳細な分析を行うことで、義務教育期間全体を見通した学習を進める。

【学力調査の対象】 小学校 1 ～ 6 年生、中学校 1、2 年生

【学力調査の内容】 小学校：国語、算数

中学校：国語、数学、英語



事業の成果・今後の展望等

単に各年度で学力調査を受けるだけでなく、個人個人で調査結果を紐づけをすることで、義務教育の 9 年間を通して、学力の推移を追跡することができ、適切なタイミングでの児童生徒への指導につなげることができた。

学力の推移は、複数年観察する必要がある、即効的な効果を認めるのは困難であるが、各児童生徒の紐づけを着実に、かつ有効に活かし、事業を進めていく。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

亀岡市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

魅力と特色ある学校づくり推進事業（小学校・中学校）

事業の経過・背景・課題

子どもたちが、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画する資質・能力を育成するため、各学校が、自校や地域の実情等を十分に踏まえ、創意工夫を生かした取組を展開することが必要となっている。

取組内容

交付実績額： 1,730 千円

- ・各学校が、自校や地域の実情等を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある取組を展開
- ・児童生徒のふるさとを愛する心の育成、地域の教育力を活用した特色ある取組を推進

【取組内容】

- 詳徳小学校…… 学校図書館を活用した学習活動等を通し、豊かな人間性を醸成する情操教育を進めるとともに学力向上を図る。
- 曾我部小学校…… 地元特産物である「まる曾たまねぎ」のPR（CM、ポスター、キャラクター作成等）を通して、地域と連携した学校づくりを推進する。
- 亀岡小学校…… 特別支援教育の先進的な取組及び他校への波及（特別支援免許に繋がる単位認定も視野に入れた研修への参加や通常学級担任と支援学級担任の交換授業など）
- 大成中学校…… 中国文化に関する講演やワークショップの開催等を通して異文化理解、国際理解教育を推進する。
- 詳徳中学校…… I C Tを活用した体育会系部活動の動作分析やプログラミング教育など、創意工夫を生かした取組を実施する。

事業の成果・今後の展望等

【各学校の取組成果】

- 詳徳小学校…… 学校司書を中心に、学校図書館の整備が図れた。
- 曾我部小学校…… 地元の農家組織との連携を深めることができた。また、取組を通して、児童や保護者の中に、曾我部町の魅力や特色がはっきりし、地域を誇りに思える様子が窺えるようになってきた。
- 亀岡小学校…… 研修や特別支援学級の実践について関わったりすることにより教職員が特別に支援や配慮のいる児童に適切な指導や支援に自信を持って行うことが増えた。
- 大成中学校…… 中国の料理体験や異文化講演聴講を通して、国際理解が深まった。
- 詳徳中学校…… I C Tを活用することで、S T E A M教育の推進の一助となった。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

授業支援ソフト「ロイロノート」の導入事業

事業の経過・背景・課題

国のGIGAスクール構想に基づき、令和3年4月に児童生徒1人1台タブレットを配備。充実した授業展開を図るため、令和4年度は授業支援ソフト「ロイロノート」を試験的に導入し、タブレットを活用した授業を行った。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業支援ソフト「ロイロノート」の活用が有効であるため、令和5年度から本格導入することとした。

取組内容

交付実績額： 3,342 千円

授業支援ソフト「ロイロノート」を導入し、学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る

- ・児童生徒、教員全員のタブレットに「ロイロノート」を導入し、授業等で活用
- ・教職員研修「創造的な授業づくり講座」（亀岡市みらい教育リサーチセンターで年4回実施）で有効な活用方法を共有
- ・「活用型情報モラル教材GIGA ワークブック」ロイロ版等の教材を共有
- ・各小中学校、義務教育学校での活用状況を確認し、活用頻度が少ない学校に対して、ICT支援員を重点的に配置したり、指導主事による指導助言を行うなどの支援を実施

〔ロイロノート・スクールの主な機能〕

- ・オンラインで課題や宿題を提出・返却する
- ・複数人で同時に意見を共有・比較する
- ・1人1人の意見を集約し可視化する

〔活用型情報モラル教材GIGA ワークブック〕

亀岡市教育委員会が、一般財団法人LINEみらい財団と連携し作成した「情報モラル」を含む「情報活用能力」の育成を図るための教材



事業の成果・今後の展望等

- ・集めた情報を整理して発表するなど、児童生徒が主体的に活動する環境が充実した。
- ・クラス全員の考えを瞬時に共有することができるようになり、協働して学び合う環境が充実した。
- ・考えを可視化できるようになり、深い学びに繋がる環境が充実した。
- ・以上のことから、児童生徒が主体的に課題と向き合い、自らの考えを持ち、考えを伝え合うことで、学びの意欲を高め、深まりを求める「考え合う授業」の充実が図れた。
- ・今後も、発達段階や教科の特性に応じた活用について検討し学習活動を充実するとともに、活用が進んでいない学校に対して指導助言や支援を行う。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

学校図書館への司書派遣事業

事業の経過・背景・課題

本市では、令和3年度まで専任の「学校司書」の配置がなく、市立図書館の職員1名を市内小学校6校に派遣していた。

本に関する助言・整備等を行い子どもたちの読書への興味を高めるとともに、授業支援等を行い子どもたちの「学び」を支えるためには、学校司書の配置が必要であるため、令和4年度から学校司書を3名任用し全小学校に配置したが、中学校には配置しておらず、図書館教育を進める環境が十分でない。

取組内容

交付実績額： 2,954 千円（小学校配置 3名）

※セット新規：中学校配置（2名）

（※）本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

全小・中学校、義務教育学校を学校司書（5名）が巡回し、子どもが読書に親しむことができる環境を向上（学校司書は、拠点校を中心に担当の学校を巡回）

【取組内容】

- 学校図書館の整備
 - ・学校図書館の環境や資料の整備
 - ・児童生徒への読書支援
 - ・学校図書館情報の発信等
- 教育指導への支援
 - ・情報の紹介、資料リストの作成等による授業支援
 - ・司書教諭との連携による様々な教育支援



事業の成果・今後の展望等

- ・専任の「学校司書」がいることで、子どもたちが図書館に足を運びやすく本に関する相談ができるなど、読書量の増加につながっている。
- ・子どもたちの手に渡る本がきれいになり、新しい本も早く提供することができるなど、学校図書館の環境整備が格段に良くなった。
- ・学校図書館は児童生徒の読書活動の拠点であるため、学校司書の配置をより充実させ、巡回回数を更に増やしていく必要がある。